

受付番号	70		
許可番号	大歯医倫 第 111094 号		
研究課題名	病院勤務の歯科衛生士による周術期等口腔機能管理に関する食道がん患者の意識調査		
研究責任者	神 光一郎	申請者	尾形 祐己
研究終了日	2021 年 3 月 31 日		
所 属	医療保健学部 口腔保健学科	所 属	医療保健学部 口腔保健学科
職 名	准教授	職 名	助手
申請の概要			

口腔内の状況が全身に影響を与えるとのエビデンスが得られてきており、周術期等口腔機能管理の重要性が医科においても認識されるようになった。周術期等口腔機能管理で誤嚥性肺炎といった術後合併症の減少や化学・放射線療法による口腔粘膜への為害作用の軽減によって、患者不快感の緩和や在院日数の短縮が期待される。2012 年(平成 24 年)の歯科診療報酬改定では周術期等口腔機能管理が保険収載され、医科歯科連携が病院内でさらに推進されるようになった。同時に、その担い手である病院勤務の歯科衛生士の専門性に注目がされるようになった。実際、病院勤務の歯科衛生士が周術期等口腔機能管理に携わることで、前述したような利点があることが数多く報告されている。しかし、その受け手である患者の周術期等口腔機能管理に対する期待や、管理によってもたらされた結果に対する認識についての研究は十分に行われているとは言えない。また、病院における日々のケアでは他の医療職の存在が大きく、医療職間においても病院勤務の歯科衛生士の役割が正しく理解されていないことが推察される。しかし、今後も医科歯科連携の取り組みが推進される中で、

病院勤務の歯科衛生士による周術期等口腔機能管理の重要性に対する他の医療職の認識が高まると考えられる。そこで、周術期等口腔機能管理によってもたらされる身体的、経済的効果だけでなく、歯科衛生士が携わった周術期等口腔機能管理に対する患者の思いについても明らかにすることが必要となる。

本研究では共同研究者が勤務する病院において内視鏡外科手術を受けた食道がん患者 50 名を対象として、歯科衛生士が携わった周術期等口腔機能管理に対する意識調査を実施し、患者のニーズや評価を明らかにすることを目的とする。本研究により、周術期等口腔機能管理における歯科衛生士の役割が明確化され、医療職種間の連携がより深化することが期待される。